

いま

私たちの現在を問う

女性の活躍とは？

女性の活躍が言われています。1970年代に始まったウーマン・リブ運動、そして国際婦人年は、戦後の女性たちの生き方、制度に大きく影響を与えてきました。女の視点で歴史を見直すきっかけとなったウーマン・リブとはなんだったのか、その後の男女共同参画が実現するに至る道筋をたどり、何が実現され、何が問題であるのかを一緒に考えましょう。

10/28 (土) 10:20~12:10

あざれあ 504 会議室

第1回

賃金のジェンダー平等を求めて

～同一価値労働同一賃金原則の変遷と課題～

講師 居城舜子さん 元常葉学園大学教授

※ 第12回静岡県女性史交流のつどい (あざれあメッセ)



11/15 (水) 13:30~15:30

アイセル21 研修室



第2回

私を生きる 自由に生きる

講師 田中美津さん 鍼灸師

12/4 (月) 13:30~15:30

あざれあ 第1研修室

第3回

私たちの現在を問う いま ~女性の活躍とは?~

講師 加納実紀代さん 女性史研究者



- 対象 : どなたでも
- 資料代 : 300円/回(第1回のみ無料)
- 定員 : 第1回 30名 第2・3回 50名
- 申込先 : 054-266-7027(鈴木) 054-270-8062(大塚)

E-mail sped9379@woody.ocn.ne.jp

主催 : 静岡女性史研究会
 協働 : NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか 三島女性史サークル
 きらり交流会議・女性史づくり (一社)大学女性協会静岡支部

講師 プロフィール

居城 舜子 (いしろ しゅんこ) 元常葉大学教授

1948年北海道生まれ。北海道大学大学院卒業後、札幌学院大を経て常葉学園大学教授。専門は労働経済学、女性労働、賃金制度。静岡県最低賃金委員会会長、静岡県労働委員会委員、静岡市人事委員会委員長などを歴任。所属する社会政策学会ではジェンダー部会長を務める。主な著作等に「同一価値労働同一賃金原則の変遷と課題」(『大原社会問題研究所雑誌』632号、2011年)、「欧米における同一価値労働同一賃金原則の動向とILOのジェンダー中立的な職務評価方法」(『やってみよう職務評価』労働教育センター、2010年)、「フェミニスト経済学・ペイ・エクイティ・生活賃金」(『消費生活経済学3訂』伊藤セツ・川島美保編、2008年)等。

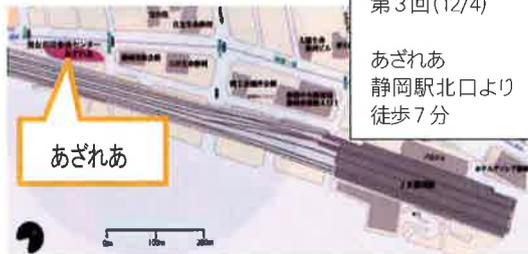
田中 美津 (たなか みつ) 鍼灸師

1943年東京生まれ。1970年に「便所からの解放」という文章を発表し、ウーマン・リブ運動の先駆者となった。1971年に「ぐるーぷ闘うおんな」のリーダーとして、他のリブグループと共に新宿に「リブ新宿センター」を開設。同センターは女性の駆け込み寺として、また中絶や避妊などの相談センターとしても機能した。1975年、国際婦人年世界会議を機にメキシコに渡り、4年半暮らす。「人はからだ」と悟り、帰国後は鍼灸師として活動。主な著書に『いのちの女たちへーとり乱しウーマン・リブ論(新版)』(インパクト出版会、2016年)、『かけがいのない、大したことはない私』(インパクト出版会、2005年)等。

加納 実紀代 (かのう みきよ) 女性史研究者

1940年ソウル生まれ。1945年、広島で被爆。京都大学卒業後、1968年まで中央公論社勤務。1976年に「女たちの現在(いま)を問う会」を結成。1996年までに『銃後史ノート』10巻(JCA出版)、『銃後史ノート戦後編』8巻(インパクト出版会)を刊行。敬和学園大学特任教授を経て、現在は著述や講演などで活躍。主な著書に『女たちの<銃後>』(筑摩書房、1987年)、『越えられなかった海峡—女性飛行士・朴敬元の生涯』(時事通信社、1994年)、『戦後史とジェンダー』(インパクト出版会、2005年)、『ヒロシマとフクシマのあいだ』(インパクト出版会、2013年)等。

会場案内



第2回(11/15)

アイセル21
バス
JR静岡駅北口10番乗り場県立病院高松線→「アイセル21」前下車
徒歩
JR静岡英北口より30分
静鉄新静岡駅より20分
日吉町駅より15分

申込書 (FAX 054-270-8062)

氏名	住所	電話番号